



## 別所中だより

令和8年4月24日 4月号-②  
八王子市立別所中学校  
八王子市別所2-28  
Tel 042-676-6635

### ～教員の「お客さん」とは誰なのか～

副校長 秋山 雅之

例えば、物を売る仕事や食べ物を提供する仕事における「お客さん」が誰かといえ、サービスを受けてお金は払ってくれる人に他ならないということはわかりやすいことですね。

では、我々教員にとって「お客さん」とは一体誰のことを指すのでしょうか？

こういう問いを出されると、きっと多くの人は「子どもたち」と思われるのではないのでしょうか？

しかし、私の中では、この答えが正解とは言い難いです。

なぜなら、子どもたちの要望のすべてに答える教育というのは不自然だからです。

「先生、廊下を走ってよくしてください!」「宿題を出さないでください!」「1週間休みなして部活動をやらせてください!」

もし、このような要望をもった子どもがいたとしたら、やっぱりこの願いは叶えられないですものね。

お客さんの願いを叶えようと奔走することをサービスだとするのであれば、やはり「子どもたち」がお客さんになるのは少しおかしいのがわかっていただけではないのでしょうか。

それでは、「保護者や地域なのか？」と問われれば、私の中ではそれも違うと思っています。

なぜなら、我々教員と同様に、保護者・地域のみなさんも等しく、家庭教育や学校教育を受けてそれぞれの価値観をもっているからです。

わかりやすい例を挙げれば、幼い頃から聞き分けがよく優しく指導されながら育ってきた大人と、やんちゃやおてんばで多少強く指導されながら育ってきた大人では、教育に対する要望も異なるからです。

それでは、一体何がお客さんになるのかといえ、私は「社会そのもの」だと思います。

基礎学力とともに、各々が培ってきた価値観の中で、「一端の社会人になるためにはこの価値観は大切だと思うから伝えたい」ということを一生懸命子どもたちに伝えることしか我々教員にはできません。

自分が受けてきた家庭教育・学校教育に加えて、人や本などの作品との出会いから得た価値観の中から、それぞれが大切にしたいことを一生懸命目の前の子どもたちに伝える…。

こうやって考えてみると、我が子を一生懸命育てる保護者のみなさんや地域の子どもたちを大切に见守ってくださっている地域のみなさんも、我々教員と同じですよ。

そう考えると、我々は一切敵ではなく、味方どころか、「パートナー」とさえ言えるのではないかと思います。

何分子どもたちが、大人になろうともがいて不安を不満に変えて周囲にぶつけやすい時期です。

子育てには、様々な数の正解があるので、情報迷子になってしまう現代社会だと思います。

そんな時代だからこそ、別所中学校としましては、みなさんのお悩みにも寄り添えたらと思っています。

またそれと同様に、我々教員が指導に悩むことがあればご相談させていただければ幸いです。

そもそもそんな状態ではありませんが、お互い不満や文句をぶつけ合う関係ではなく、目の前のお子さんがよりよく社会で自立できるように知恵を出し合うような素敵なパートナーとしてこれからもやっていきたいですね!

ということで、パートナーのみなさま!今後ともどうぞよろしくお願いたします!

## (第1回 学校運営協議会的一幕より…)



○子供たちの健やかな成長をめざして…～深夜徘徊をなくそう～

学運協とは、学校運営協議会の略称です!

地域住民や保護者が学校運営に直接参画する制度(コミュニティ・スクール)の話し合いの場です。法律に基づいて設置され、学校の運営方針の承認や意見提出を行い、地域と連携した特色ある学校づくりを目指す場のことを差します。

皆さん大変お忙しい中で参加して下さる中でも、別所中学校がより良い学校になるために熱心に話し合っています。

様々な内容を話し合う中で、今回特に話題に上がったのが「深夜徘徊」についてです。

そもそも、18歳未満の深夜外出は各都道府県の青少年健全育成条例により制限され、補導の対象となります。

ここでいう「深夜」というのは、習い事等で忙しくしている子もいると思われるので都の条例では、23時を指します。

しかしながら、数年前の生活指導主任研修に来られた警察の方のお話によると、深夜徘徊には様々なリスクがあるそうです。

- ★事件や犯罪に巻き込まれるリスクが上がる
- ★深夜に外にいと、不審者に声をかけられたり、犯罪の被害者になったりすることがある
- ★非行のきっかけになりやすい
- ★生活リズムの乱れが学業に影響を及ぼす など…

このようなリスクから、都道府県によっては、午後8時以降を補導の対象とする場所もあります。

しかしながら、本校の生徒であってもコンビニエンスストアや公園、その他の場所でたむろしている中学生を思いきりに声をかけるのはなかなか勇気がいることです。

そんな観点から、議論の末 学運協では、身近な場所で深夜徘徊を見つけた際には、時間にかかわらず学校に「マチコミメール」で情報提供を促すのがよいのではないかと方向でまとまりました。

学運協の方々が目にした子たちも別所中学校の子かどうかは定かではないのですが、本人たちは感じなくても、リスクがいっぱいある深夜徘徊です。

皆さんの力も借りながら注意を促して、健全に子どもたちが成長していけるようにともに力を合わせていきましょう!

ということで、地域の子どもたちのことを本気で考えてくださっている学運協のみなさんの紹介でした!深夜徘徊が減っていくためにご協力をお願いいたします(^^)